

# Fuji Champion Race Series

2024.5.25 SAT

ROADSTER CUP

1.5/1.6/1.8/2.0

Round 2



ロードスターカップは5クラス合わせ44台がエントリー。そのうち3台が欠場し、41台が予選に挑んだ。欠場の中には1.50penで足掛け3年、目下7連勝中の#23山本謙吾も含まれ、その#23山本から「代わりに獲ってきて」と勝利を託された#10国分務が、2.00penの#87石井達也、#77長岡哲也、#101高橋裕史の3人をも従え、ポールポジションを獲得した。「もう20秒ぐらい早く出れば、先に出て行った方々に引っかけらずに済んだんですが、それでも自分は1台ぐらいで。仕事の都合とのことですが、山本くんがないのでチャンスだなと。でも、いなきゃいけないでテンション下がっちゃいますが(笑)」と#10国分。1.8では#91神谷誠が開幕戦ウィナーの#8関野大志を僅差で抑えてトップ。1.6は#34永野裕介が、そして1.5 Challengeでは#29鷲尾拓末がトップとなっていた。

決勝では自ら「稀に見る好スタートでした」と語る、#10国分がホールシヨットに成功。後続が激しく争う間に、1周目だけで1秒7のリードを奪う。しかし、「タイヤの美味しい時は逃げられましたが、ちょっとタレてきたら、ストレートでやられちゃって」と#10国分。代わって#77長岡がトップに立ち、

6周目に先行を許した#87石井を次の周に抜き返す。そのままゴールに飛び込もうとした#77長岡ながら、最後のひと伸びに優った#87石井、さらに#101高橋の逆転を許してしまう。だが、#87石井は最低地上高違反で失格となり、繰り上がって#101高橋が2.00penの優勝を飾った。1.50penでは#10国分が、2位の#20佐藤文昭に2秒3差の圧勝に。

1.8は#91神谷がスタートに出遅れ、#8関野にトップを明け渡すも、3周目に逆転すると、「最後は余裕を持って、関野さんがNDとバトルしていたので、こちらは『ごちそうさま!』という感じでした」と語っていた。

3台の戦いとなった1.6は、今回でレース2戦目の#34永野が、#27野木強を最後まで前に出すことなく初優勝。「前は僅差で敗れてしまったので、今回はしっかり勝って良かったです」と#34永野。

1.5Challengeは#29鷲尾が、2戦連続でポール・トゥ・ウィンを達成。昨年までパーティレースを戦っていた#63吉田恭将の猛追を受け、「マジでやばくて、どうにかミラーを見ないようにして、自分の走りに集中して、自分のペースで走れたのが良かったんでしょ」と、勝因を分析していた。



**RESULT リザルト 1.6**

Rank No.	Name
1	34 永野 裕介
2	27 野木 強



**RESULT リザルト 1.8**

Rank No.	Name
1	91 神谷 誠
2	8 関野 大志
3	11 松浦 健
4	2 竹田 幸一郎
5	41 松下 知己



**RESULT リザルト 1.5 OPEN**

Rank No.	Name
1	10 国分 務
2	20 佐藤 文昭
3	31 丹澤 勇貴
4	112 池島 美紅
5	79 杉浦 良
6	7 茂木 文明



**RESULT リザルト 1.5 Challenge**

Rank No.	Name
1	29 鷲尾 拓末
2	63 吉田 恭将
3	80 白井 達哉
4	254 小野 佳寿美
5	41 八田 新一
6	50 田中 悠太



**RESULT リザルト 2.0 Open**

Rank No.	Name
1	101 高橋 裕史
2	77 長岡 哲也
3	96 遠藤 幸和